



代表理事組合長  
山内 清久

平素は、JAめぐみのの各事業に格別のご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

農協を取り巻く経営、国内外の経済環境は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が徐々に緩和され、国内経済は全体としては緩やかな回復基調が続きましたが、昨年2月より続いているロシアのウクライナ侵攻に端を発する資源価格の高騰や、資源・労働力不足によるインフレの進行、そしてインフレを抑え込むための金融引き締めによる円安の影響から多くの物品価格が高騰し、国民生活は厳しさを増しております。

農業生産においては、天候不順による野菜の収穫量の減少に加え、生産資材価格上昇の影響により、農家経営に大きな打撃を与えた年でした。

こうした状況の中、令和4年度は第19回通常総代会で承認を受けた中期経営計画の初年度として、基本方針「対話を通じた農業・地域・JAの未来づくり」、3つの基本目標「持続可能な農業の実現」、「食」・「農」・「暮らし」を通じた地域活性化への貢献、「自己改革を支える経営基盤の強化」の実践と共に自己改革実践計画に取り組みました。

具体的に持続可能な農業につきましては、堂上蜂屋柿でのクラウドファンディングの取り組み、ひるがの高原だいこん共同洗場施設の建設を実施しました。「食」・「農」・「暮らし」を通じた地域活性化への貢献につきましては、郡上・可児2か所の生産資材店舗を新設、女性総代へのアンケートを実施しました。自己改革を支える経営基盤の強化につきましては、9営業所を廃止する等順次店舗の再編をすすめ、職員数についても計画的な削減を図り、管理費の抑制に努めました。

迎えた令和5年度は、JAめぐみのが合併して20周年を迎える節目の年です。事業環境の不確実性・複雑性が高まっている時代において、JAめぐみのが地域に貢献し、組合員から必要とされる組合であり続けるための方向性を明確にするものとして策定された「20年の感謝と地域とつくる未来」に基づき、将来を見据えた活動を役職員一同邁進して参ります。

おわりに、組合員・地域の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和5年7月